

GrapeSEEDカリキュラムの誕生とその成果

明泉学園の英語プログラムで現在使用されている「GrapeSEED」カリキュラムは、開発開始から20年を迎えました。冬号では、明泉の英語教育を大きく変えたこのカリキュラムの由来と誕生の背景、そしてその成果についてご紹介いたします。



図長
ダニエル・ファンガー

R 明泉の英語教育の歩み

1967年の開園当初から、英語教育は明泉学園の大きな特徴でした。当時の日本では珍しく、明泉幼稚園では毎日英語の時間を設け、卒園後も学び続けられるよう「フレンドクラブ」を開講し、12歳まで継続して学べるプログラムを整えました。

独自に構築したカリキュラムは、子どもたちが楽しく学び、良好な発音やリスニング力、異文化理解を育む効果を生み出しました。しかし、実践的なコミュニケーション能力の育成には限界があり、保護者からより高いレベルの英語教育を求める声が高まってきました。

新たな挑戦：カリキュラム刷新

2005年、学園創立40周年を迎えるにあたり、理事会は「真のバイリンガル育成」を目指す新コース（現プレミアスクール）の設立と、英語プログラム全体の底上げを決定しました。世界中で質の高いカリキュラムを探しましたが見つからず、ついに自ら開発することを決断。専門家を迎え、40年の経験を活かしてゼロから新しいカリキュラムを作り上げました。

GrapeSEED誕生と世界への広がり

当初は「MeySen Standard English」としてスタートしましたが、教材制作を外部に委託したことを機に「GrapeSEED」と改名。2020年にはUnit40までの教材が完成し、現在では世界18か国で9万人以上の子どもたちが学んでいます。

成果と変化

2007年に幼稚園で導入されたGrapeSEEDは、従来のプログラムを大きく超える成果を示しました。

2015年には、8年間GrapeSEEDで学んだ子どもたちが卒業し、ネイティブスピーカーと簡単な会話ができるレベルに到達しました。これにより、明泉の英語教育は質・効果ともに飛躍的な進化を遂げました。

「GrapeSEED」は、明泉学園の挑戦から生まれ、今や世界中の子どもたちに英語を届けるカリキュラムとなっています。これからも、子どもたちが言語を通して世界とつながり、未来を切り拓く力を育むために、私たちは歩み続けます。



私は2024年度まで中1アメリカ研修旅行の団長として毎年子どもたちを引率しましたが、GrapeSEEDカリキュラム導入前は、現地の人々と自信を持って意思疎通できていたのは参加者の1割に満たないほどでした。それが近年では、参加者の大部分が初日から意思疎通できており、アメリカ人との交流を楽しむ様子が見られて大きな変化を感じました。

GrapeSEEDの開発者、ハワード博士による誕生秘話は裏面をご覧ください

Bible verse

神はそのひとりを世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宿めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

ヨハネの手紙 第一 4章 9-10節

聖書

GrapeSEED開発者
ハワード博士

20年経っても輝く瞬間 私のカリキュラム開発最大の喜び

2005年の終わり頃、私の親しい友人から電話があり、「近いうちに日本の仙台市にある明泉学園から電話があるから受けてほしい」と言われました。時間に追われていた私は、勝手に電話番号を教えたことに少し立腹しましたが、彼は「絶対に受けたほうがいい」と確信していました。

その電話がきっかけで、シアトルで9時間に及ぶ打ち合わせを行い、仙台を訪問してコンサルティングをすることになりました。やがて私は、これまで訪れた約1,000校の中でも最も素晴らしい学校に出会うことになりました！明泉学園のリーダーシップ、教職員、施設は群を抜いており、笑顔と「英語を学びたい」という強い意欲を持った素敵な子どもたちにすぐに心を奪われました。

数々のクリエイティブな会議、数か月にわたる調



▲ハワード博士（左奥の白いシャツでお話しされている方）

査と戦略立案を経て、私は新しいカリキュラムの長大なコンセプトデザインを作り、印刷しました。それを妻に渡しながらこう言いました。「明泉がこれを本当作ってほしいと言わないことを願うよ。これは僕が作った中で一番大きな“願望リスト”だから！」

しかしその後、私は「GrapeSEED」と呼ばれる15年にわたるプロジェクトに署名することになったのです。

明泉のリーダーたちが求めていたのは、単なる新しいカリキュラムではなく、結果でした。数年ではなく、数か月で英語を話せるようになること！新しいカリキュラムは、母語を学ぶ同じ方法で英語を習得できる、効果的でワクワクするプロセスを備えていなければなりません。つまり、文法中心の従来型ではなく、楽しく心躍る体験を通して、物語を聞き、歌やチャンツ、さまざまなアクティビティに参加しながら、英語で「考え、話し、読み、書く」ことを学ぶのです。

GrapeSEEDに最適な学習フォーマットは「機能・概念構造アプローチ」というアイデアでした。これは製品には使われていたが、語彙や文法よりも言語機能と一般概念を優先する完全なカリキュラムは今まで見つかりませんでした。明泉のリーダーたちは、その大胆な決断を下し、世界で初めてそれを実現したのです！



GrapeSEEDを明泉学園で導入して3か月後、私は教室で何時間も過ごしながらカリキュラムの実践を評価し、プログラムの成功を観察しました。子どもたちが聞いたことにすぐ反応する様子から、理解力（言語の受容）が目標に向かって確実に伸びていることが明らかでした。さらに、発話力（言語の産出）も期待以上でした。休み時間に4歳児たちが自然な英語で会話し、学んだ言語機能を使って自分の考えを表現しているのを見たときの感動は言葉にできません。子どもたちは新しく覚えた英語で私に楽しそうに話しかけ、私の返答のほとんどを理解していました。たとえ私が使う言葉が彼らが知らない言葉だとしても、彼らは自分たちの知っている言葉を使って話せるのです。

なんと素晴らしい、やがていのある冒険だったことでしょう！20年経った今でも、私のカリキュラム開発キャリアで最大の喜びは、GrapeSEEDと明泉学園の素敵な子どもたちであると断言できます。彼らはいつまでも私の心の特別な場所にあります！

入園からシームレスに続く

カリキュラムと教材

また、2019年度からは年少に「LittleSEED」を導入しました。「LittleSEED」は、アクティビティを通して英語の重要な音・語彙・基本表現に触れることができるよう3歳児向けに開発されたカリキュラムです。年少の子どもたちは「難しい外国語」だと認識することなく、先生と一緒に英語の時間を楽しんでいます。そして2025年度からは、タドラークラス（2歳児）の英語の時間に「GrapeSEED Baby」を使用しています。「GrapeSEED Baby」は、乳幼児の母語と英語双方の言語土台を築く絵本シリーズで、「英語に触れ、英語を聞くインプット」を重点に、英語を話すための初歩的なリスニングスキルの習得を目指しています。「GrapeSEED」カリキュラムと教材の拡大とともに、入園から小学6年生まで子どもたちが自然な流れで英語力を高めていくことができるようになりました。

園では、年中～小学6年生の英語学習に「GrapeSEED」を使用し、自然な言語習得のプロセスによって“話せる英語”とコミュニケーション力を段階的に身につける授業を行っています。



▲上から、GrapeSEED教材、LittleSEED教材、GrapeSEED Babyの絵本。

同窓生

明泉に通っていた当時、英語のクラスは先生がピアノやギターを弾いてくれて、それに合わせて英語の歌を歌ったりするのがとても楽しく、また、向学心を高めてくれるクラスでした。フレンドクラブで先生に伝えたいのに伝えられないことがあると、家に帰った後に両親に英語での表現方法を聞き、次のクラスの時に英語で伝えることにチャレンジし、無事に通じた時には格別の達成感があったのを今でも覚えています。

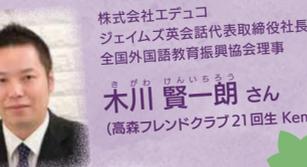
一番楽しんだ記憶があるのはフレンズデーです。私は幼稚園に通う頃から園にいた馬やポニーが大好きでした。フレンズデーの日にはいつもより早く起き、早く始まらないかと待っていたものです。

私の経営するジェイズ英会話では、子ども向け英会話コースでGrapeSEEDをフラッグシップ（メインのカリキュラム）としての位置づ

けで導入しています。多くの英会話スクールで主流となっている週1回の学習では、「家庭での独自の取り組み」や「保護者の英語学習の経験」などによって、児童の英語習得に大きく差が出てしまいます。GrapeSEEDはアプリでも学習できるので、どのご家庭でも「毎日」「子どもが飽きず」に反復学習が継続されます。それにより、どの児童も英会話を習得できています。

また、週1回英会話を学習しているご家庭の多くは、小学校高学年になると英検対策クラスも受講し、卒業までに英検3級の合格を目指しますが、GrapeSEEDコースの児童は対策クラスを受けることなく3級や準2級に合格するのです。中学校の準備も兼ね備えた優れた英語教育プログラムだと言い切れます。

明泉幼稚園やフレンドクラブ、プレミアスクールで学んでいる子どもたちが大人になる頃には、今以上に英語によるコミュニケーションが必須スキルになっていることは間違いありません。AIの進化や機械翻訳・通訳によって英会話スキルを身につ



株式会社エデュコ
ジェイズ英会話代表取締役社長
全国外国語教育振興協会理事
木川 賢一朗さん
(高森フレンドクラブ21回生 Ken)

Friends

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。

発行日：2026年2月1日

発行：宮城明泉学園 www.meysen.ac.jp

Friends Newsletterは年に4回、カンガルークラブからハイスクール、同窓生などに関するニュースをお届けする学園ニュースレターで、明泉サイトでも公開しています。



本誌で引用している聖書は、以下の聖書によります。聖書 新訳 新日本聖書刊行会

フレンズ Friends Winter 2026

「読む」とつながる。「読む」とひろがる。



MeySen Newsletter No. 213

Slide into Winter Fun!!



Let's Finish This School Year with Joy!

進級や卒園・卒業まであと少しとなりました。どんなに小さな一歩でも、積み重ねれば夢や目標に近づきます。先生やクラスメートと一緒に、笑顔で2025年度をフィニッシュしましょう!



明泉60周年



おかげさまで明泉学園は今年、「開園60周年」を迎えます。2026年は、学園全体で気持ちをひとつにし、皆で60年という節目を盛り上げていきたいと考えています。その想いを形にしたものが、この60周年記念ロゴです。このロゴとともに、さまざまな行事やイベントを通して、保護者の皆さま、在園生、卒園生、そして企業の皆さまと喜びを分かち合っていきたいと思います。ロゴのデザインには、これまでの周年ロゴの流れを大切にしながら、明泉らしさが自然に感じられるよう工夫を重ねました。学園の象徴であるベルソナマークとのつながりを意識し、「6」を印象的に取り入れることで、60周年という節目をわかりやすく表現しています。華やかさの中にも落ち着きと親しみを感じられるデザインとし、これまで支えてくださった皆さまへの感謝と、これからの明泉学園の未来への広がりを表した周年ロゴです。

第18回ドイツ連邦共和国大使館 絵画コンテスト 2025



中学生部門 第1位 「ベートーヴェンとドイツ巡り」 田代七緒さん © German Embassy Tokyo

このたび、高森プレミアハイスクールG8の田代七緒さん(Leanne)が、ドイツ連邦共和国大使館主催の絵画コンテストにおいて、見事、中学生部門第1位に輝きました。田代さんは小学生の頃、ヴァイオリンのレッスンでドイツを訪れた経験があり、その際の楽しい思い出が今も心に残っているそうです。今回コンテストに出展するきっかけとなったのは、昨年のニューズレター冬号に掲載されていた、同じくドイツ連邦共和国大使館主催の絵画コンテストで受賞された明泉生の記事でした。その記事を読んで「私も応募してみよう」と思い、挑戦することを決めたとのことです。なお、2025年11月26日にはドイツ連邦共和国大使館に招待され、表彰式にて賞状が授与されました。



「世界津波の日」2025 高校生サミット in 仙台に議長として参加

小椋 琉華 (丸山フレンドクラブ47回生 Annie) こんにちは! 高校2年生の小椋琉華です。私は11月27日・28日に開催された「世界津波の日」2025高校生サミット in 仙台に議長として参加しました。サミット当日は、国内外10か国から多くの高校生が参加し、被災経験や各学校での研究内容を共有しました。私たちの思いやアイデアは、アクションプランとして「仙台未来宣言」にまとめているので読んでいただくと嬉しいです!

また、議長・副議長の仕事として、ニューヨークの国連本部も訪問しました。二度とないであろう舞台上に緊張しつつも、その後に開催されたレセプションでは多くの方々に褒めの言葉をかけていただき、自分の可能性が広がったような感覚を覚えています。準備から当日まで多様な国の人々と親しく話すことができたのは、明泉で楽しく英語を学んだからだと考えています。また私は、5月まで長期アメリカ留学もさせていただきました。帰国後、自分の経験を生かす場がなかったため、今回のサミットであらためてコミュニケーションツールとしての英語に大きな価値を感じ、さらに英語が好きになったと感じています。これからも、技術としてではなく、相手を理解し、打ち解ける方法として英語力を磨き続けたいと思います。 高校生サミットの様子と「仙台未来宣言」は、仙台市ホームページでご覧いただけます。 <https://www.city.sendai.jp/shinsai/fukko/summit2025.html>



高校生サミットで活躍する琉華さん (写真下: NY国連本部にて)

動物たちが大好きな 糞のおはなし

明泉では、動物たちが毎日元気に過ごせるように、さまざまなお話をしています。その中でも欠かせないのが糞です。糞は、馬や羊、山羊、ロバ、アルパカが過ごす馬小屋の「おふとん」のようなものです。床をふかふかにして暖かくしたり、動物たちがリラックスできるようにしてくれます。また、エサの時間以外でも、おながすいたときにはおやつ代わりに食べることもあります。明泉で使っている糞には、主に「長糞」と「ロール糞」の2種類があります。



農家さんが稲刈りの後、「稲架掛け」という方法で天日干した糞です。



稲刈り後に乾燥させ、機械で細かく切りながらロール状にまとめた糞です。

動物がたくさんいる明泉では、どちらの糞もとても大切で、毎日たくさん使っています。しかし最近、特に長糞の入手が難しくなっています。もし、ご親戚やお知り合いの農家さんで「糞ありますよ!」という情報がありましたら、職員までお知らせいただくと大変うれしいです。

仙台育英チア部が演技を披露!

仙台育英学園高等学校のチアリーディング部「ライオンズ」が10月の誕生会に来てくださり、元気いっぱいのチア演技を披露してくれました。「元気、勇気、笑顔」がモットーの仙台育英チア部は、部活の応援や地域のイベント、競技チアの大会などで活躍しています。本園安全係の三浦郁美先生がコーチを務めることから、今回の訪問が実現しました。明るい音楽に乗せ、元気なかけ声とともに登場すると、そろったダンスや大きなジャンプ 仲間をしっかりと支えるスタッツ(組技)など、チアならではの技が次々と決まり、子どもたちは声をあげて大喜び。観客の赤間由樹子先生から技の説明があったあと、今度は誕生月の園児たちがお姉さんの肩の上に立つ「エレベーター」に挑戦。こわごわながらも最後は笑顔で見事ポーズを決め、大成功でした!



卒園生がチア部の一員として来てくれました

岩元 奈々 (丸山ハイスクール 11年 Ellen) みなさん、こんにちは。高校2年生の岩元奈々です。私は仙台育英のチアリーディング部に所属し、仲間と励まし合いながら大会に向けて練習しています。技がそろったときの達成感や、応援を通して人に元気を届けられることが、チアの一番の魅力であり楽しさだと感じています。今回、明泉幼稚園の卒業生としてお誕生会に招待していただき、幼稚園のお友達の前でチアを披露



年長当時の担任だった雅美先生と子どもたちと一緒に昼食

仙台市ホームページより ※仙台市ホームページに掲載されている内容は、予告なく変更・削除される場合がありますのでご了承ください。